

令和2年9月25日

福知山市議会議長 芦田眞弘 様

予算審査委員会委員長 野田勝康

## 委員会審査報告書

本委員会に付託された議案について、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第80条の規定により報告します。

### 記

#### 1 委員会付託議案

- ・議第63号「令和2年度福知山市一般会計補正予算（第8号）」
- ・議第64号「令和2年度福知山市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）」
- ・議第65号「令和2年度福知山市国民健康保険診療所費特別会計補正予算（第1号）」
- ・議第66号「令和2年度福知山市休日急患診療所費特別会計補正予算（第2号）」
- ・議第67号「令和2年度福知山市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）」
- ・議第68号「令和2年度福知山市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）」
- ・議第69号「令和2年度福知山市病院事業会計補正予算（第3号）」

#### 2 審査の概要

9月16日及び17日に委員会を開催し、付託議案の審査を行いました。各所管部署より詳細な説明を受け議案審査を行い、延べ23人の委員から34項目の質疑がありましたので主な概要について報告します。

初めに、議第63号の平和・人権の輪つながり広がり事業について「コロナ関係での減額は分かったが補正後の額196万9000円は何に使うのか」を問う質疑があり、「戦後75周年記念事業の講演会、また小・中・高校生がつながる平和学習等の予算である」との答弁がありました。

次に、福知山マラソン大会支援事業について「今回、30回の記念大会と

して予定していたが来年度記念大会として行うのか」を問う質疑があり、「次回の大会を30回記念大会として開催したい」との答弁がありました。続いて、「補正後の400万円の使い方は」を問う質疑があり、「11月23日に行う予定で仮押さえしていた機材等のほか事務局運営のための経常的な経費である。」との答弁がありました。

次に、ICT環境構築推進事業について、「オンラインルームの設置場所と庁内での活用」を問う質疑があり、「オンラインルームは旧本館に設置する。オンラインルームにテレビ会議を行う環境を構築するとともに、オンライン研修等を行える環境を整える」との答弁がありました。

次に(仮称)まちづくり構想福知山策定支援業務の債務負担行為について、「委託業者を選定する方法」を問う質疑があり、「専門的なノウハウを活用したいと考えているため、単に入札ではなく、プロポーザル等で総合的に判断できるような方法で業者選定を考えている」との答弁がありました。

次に、旧医師会館解体撤去事業について、「解体に至る経緯と跡地の利用方法」を問う質疑があり、「平成29年度にサウンディング型市場調査を実施し、6者の施設見学と、うち1者からアイデアの提案があったが、自身による建物の利活用でない提案であったため、解体する方向で検討し、令和元年度に解体設計業務を実施した。跡地については、市の所有地のまま、平面駐車場として活用する予定である」との答弁がありました。

次に、避難所感染防止対策事業について、「ダンボールベッド・ダンボール間仕切りの積算単価」を問う質疑があり、「ダンボールベッドは1個あたり8,360円、ダンボール間仕切りは1個あたり9,020円の単価としている」との答弁がありました。

次に、インフルエンザ予防接種事業について、「拡充される無料接種の対象者のうち、『64歳以下で基礎疾患をもつ人』の基礎疾患の種別と、基礎疾患があることの確認方法」を問う質疑があり、「心血管疾患、高血圧、糖尿病、慢性呼吸器疾患、肝疾患、腎疾患、悪性新生物、その他主治医等が認める場合を基礎疾患の対象とする。また、その有無は、かかりつけ医に確認していただき、予防接種を受けていただくことになる」との答弁がありました。

次に、福知山市特例定額給付金事業(子育て応援)について、「対象とする期限を『令和2年12月31日まで』に生まれたこととする理由と、対象人数の算出根拠」を問う質疑があり、「期限は、国の特別給付金の基準日である4月27日時点で妊娠していたと推定される妊婦は、12月末までには出産をされていることから定めた。また、対象者数は、1年間に概ね660

人程度の出生があることから、これを対象期間で案分して450人と見込んだ」との答弁がありました。

次に、地方創生臨時交付金の予算計上額等について、「交付限度額と予算化額の差額の今後の執行方法」を問う質疑があり、「今後も新たなコロナ対策事業や、着手済みの事業費の増額が必要な場合があれば交付金を活用していく。通常事業内でのコロナ対策等もあり限度額に達する見込みであるが、各事業の執行状況により交付限度額が充当しきれない場合は、財政調整基金の取り崩しを抑制し、交付限度額を最大限充当できるよう考えている」との答弁がありました。

次に、福知山市事業者チャレンジおうえん事業について「事業者10件分の見込みの根拠と、事業期間、そして委託事務費の375万円の内訳」を問う質疑があり、「昨年度からの店舗改装等の相談を受けている中で、コロナの対応に意欲のある事業者等が10件程度であると想定した件数である。また、事業期間については10月中旬から開始し年度内で考えている。委託事務費の内訳については、人件費、広告宣伝費等を積算している」との答弁がありました。

次に、KTR支援事業について「KTRとWILLERの事業区別と事業全体の費用の総額」を問う質疑があり「KTRは鉄道・列車を管理し、WILLERは列車を借り受け運行している。また総額については、KTR分がIC対応車内補充券発行機の導入費用に5668万4000円、観光列車の改修費用に1567万6000円であり、京都府が2分の1を負担し残りを沿線市町で割合に応じて負担している」との答弁がありました。

次に、バス・タクシー事業者等緊急支援事業について「路線バス・タクシー・自家用有償旅客運送事業者それぞれに対して、どのような対策か」を問う質疑があり「各1台あたりの費用と対策については、路線バスについては約15万円で車内の抗菌処理、タクシーについては5万円で車内に抗菌処理装置の取り付け等、また、自家用有償旅客運送については、3,000円で除菌スプレー等の支援を行う対策費用である」との答弁がありました。

次に、道路改良事業について「完成までのスケジュール」を問う質疑があり「今後直ちに詳細設計を行い令和3・4年度で工事を行う3か年の計画である」との答弁がありました。

次に、消防団員訓練事業について、「操法大会が中止になったことによる消防団員の練度の維持」を問う質疑があり、「コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、6月初旬より消防団の訓練・活動等を再開しており、災害活動・機材の点検・広報等を行っている」との答弁がありました。

次に、福知山ラーニングイノベーション・プロジェクトについて、「学習ソフトの選定に係る福知山公立大学との連携の状況」を問う質疑があり、「公立大学とは業務委託の形で、本市の情報教育全般にわたる監修、AI等を搭載した学習ソフトの選定、学習に関するビッグデータの分析システムの構築等に関して連携している。情報学部の全面的な協力を得て、これまでに3回の検討会議を開催し、学習ソフトの仕様が概ね固まってきたところである。数多くあるソフトの中から、本市の教育に最適であり、かつ、情報学部との連携がしやすい学習ソフトの選定を進めている」との答弁がありました。

次に、議第69号の病院事業における遠隔医療のパイロットスタディの実施について、「ひとり暮らしの高齢者等はPCなどの操作が難しい場合があるが、参加者をどのように想定しているのか」を問う質疑があり、「機器の操作に関しては、一般のテレビで病院からアクセスしてオンライン診療ができるような装置や、血圧測定をすれば無線で接続された機器で病院にデータが送信され患者の状態が把握できるなど、高齢者等にとっても操作が易しい機器の導入を考えている。そのうえで、参加者については、大江分院の通院患者や訪問診療の対象者の中で、オンライン診療に同意いただける方を想定している」との答弁がありました。

なお、議第64号から議第68号までの議案に対する質疑は、ありませんでした。

次に討論を行いました。

**反対**

なし

**賛成**

・新型コロナウイルス感染症対策に対し、主に地方創生臨時交付金を活用され、市民生活、地域経済を支える内容ものとなっている。生活者あるいは、事業者、また、災害対応も含め各分野の実情をくみ取り、手当されるべきところに必要な予算措置が講じられており、全議案について賛成とする。

### 3 審査結果

- ・議第63号 全員賛成で原案可決
- ・議第64号 全員賛成で原案可決
- ・議第65号 全員賛成で原案可決
- ・議第66号 全員賛成で原案可決
- ・議第67号 全員賛成で原案可決
- ・議第68号 全員賛成で原案可決
- ・議第69号 全員賛成で原案可決